

過疎化が進む地域の発展に貢献する

花の郷 滝谷花しょうぶ園有限会社 奈良県宇陀市

過疎化が進む奈良県宇陀市滝谷地区は、減反政策で休耕田が増え集落も減っていた。そんな中、「ふるさとを蘇らせた」という地元の思いを実現するため、昭和60年に「農事組合法人 滝谷花しょうぶ園」が設立された。同組合は、花しょうぶを中心とする観光施設として一定の成果をあげていたが、銀行取引や物品購入などの面で、組合組織ゆえの不便さがあった。そこで、より機動的に会社を運営するために一旦組織を解散し、平成12年12月に「花の郷 滝谷花しょうぶ園有限会社」を設立。その中心となったのが、代表取締役の^{ひがし}日下志拓也氏である。

滝谷花しょうぶ園（以下、同園）の従業員は現在23名、うち地元室生地区からの採用は10名で残りの13名も近隣市町村。地元から採用することで地域の雇用にも貢献している。また、定年ではなく、本人が働きたいだけ働けるのが魅力的であり、高齢者の従業員もいきいきと働いている。



花しょうぶが咲き誇る園内の様子

最寄りの近鉄大阪線三本松駅から同園まで路線バスはなく、花しょうぶ等が見ごろを迎える4～6月は同園がバスをチャーターしている。4～6月以外は送迎バスの運行はないが、自家用車で最寄駅や室生寺、室生地区の宿泊施設への送迎を無料でやっている。「ここにきた観光客に長く滞在してもらい、できるだけ多く地元で消費してほしい」（日下志氏）。それが地元「室生」の発展に繋がるとの思いからだ。

近鉄電車を使って奈良や大阪からの来園が中心だが、東海地方（特に静岡）からのツアーバスでも多く訪れ、ここ数年、リピーターが増えているという。

平成12年に新たなスタートを切った同園は、これまでいろいろな事業展開を行ってきた。平成16年7月には「ブルーベリー摘み取り&ジャム作り体験」を開始、平成20年には加工品の生産を始めた。加工品は土産品として同園の売店で販売されるほか、平成22年3月からはインターネットでの販売も行っている。「ひとつひとつ手作りでじっくり時間をかけて作っています。食品はすべて無添加・無農薬なので安全・安心です。インターネットでの注文も増えて、ものによってはすぐに完売する商品もあります」と日下志氏は目を細める。



無添加・無農薬の「ブルーベリージャム」（左）とアルコールや酢を入れ2か月寝かせることで好みの飲料ができる「ブルーベリー果実酒・酢の素」。

地域の衰退が深刻な問題だった滝谷地区だが、観光客など交流人口が増えたことで国道165号線沿いに道の駅、野菜の直売所、コンビニや交番ができた。このように、地域が少しずつ発展しており、同園は過疎化の食いとめに少なからず貢献しているといえるだろう。（丸尾尚史）



日下志 拓也
代表取締役

花の郷 滝谷花しょうぶ園有限会社

〒633-0313 奈良県宇陀市室生滝谷348番地
TEL: 0745-92-3187
FAX: 0745-92-3556
URL: <http://www.takidani.net/>